

【副会長ごあいさつ】

ポストコロナ時代を見据えて

令和4年度の県図書館協会の活動を振り返り一言述べさせていただきます。

令和4年度も長引くコロナ禍により，県図書館協会総会（5/13）は昨年引き続き書面開催とし，予定していた対面による研修会は中止としましたが，古川仲二県立図書館長を中心に，予定していた多くの事業に取り組むことが出来ました。

公立図書館（室）長及び業務担当者会は，北薩支部のご尽力により薩摩川内市立中央図書館をメインにオンライン開催にて行い（10/3），鹿児島純心女子大学教授小島摩文氏により，「郷土資料と図書館の役割」という演題にて御講演を賜り，有意義な研修会を開催することができました。

令和3年度は中止になった県図書館大会（共催県教育委員会）も，多くの方々のご努力により対面での開催が実現しました（11/9）。大会テーマ「新しい時代の図書館」のもと，分科会においては活発な意見交換がなされ，講演では専修大学文学部教授植村八潮氏が，「出版」という視点から電子書籍の現状と今後の見通しについて語られ，これからの図書館のあり方を考える上で多くの示唆を得ることができました。

県内では，鹿児島市立図書館，鹿屋市立図書館，川内市立図書館において電子図書館サービスの運用が開始されています。電子図書館は，SDGsの基本理念である“「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会”を支える社会インフラとしても期待されます。本県における更なる電子図書館サービスの拡大に期待したいと思います。

この数年，県図書館協会では対面による活動が制限された一方，リモートによるオンライン開催が多く行われるようになりました。新型コロナウイルスの沈静化後は，対面による事業の展開と共にオンラインによる連携を生かすことで，県図書館協会の活動基盤の強化並びに事業の拡大深化が図られていくように感じています。

最後になりましたが，県内各館の益々のご発展と職員の皆さま並びに利用者の皆さまのご健勝を祈念いたします。



鹿児島県図書館協会
副会長 井上 佳朗
(鹿児島市立図書館長)

令和5年3月